

第4章 たかさき市民討議会VOICE2013の検証と評価

4-1 検証と評価

(1) 参加者について

住民基本台帳ネットワークシステムから、18歳から75歳までの市民1300人を無作為に抽出し、参加依頼書を送ったところ、39名の方から承諾を得ることができました。承諾者を参加依頼者数で割ると、承諾率は3%（39人／1300人）となり、過去に開催したたかさき市民討議会とほぼ同様の結果となりました（たかさき市民討議会VOICE2010・・・3.4%、同2011・・・2.8%、同2012・・・3.3%）。

当日（2日間の全プログラム）の参加者については、数人から欠席の連絡があり、31人でした（1日目は34人が参加）。

参加者の男女別や年代別、地域別の人数は以下の通りです。

（単位：人）

| | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 参加者数 | 31 | | | | | | |
| 男女別 | 男性 | 女性 | | | | | |
| | 14 | 17 | | | | | |
| 年代別 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 |
| | 0 | 0 | 3 | 6 | 4 | 17 | 1 |
| 地域別 | 高崎 | 倉渕 | 箕郷 | 群馬 | 新町 | 榛名 | 吉井 |
| | 17 | 0 | 1 | 1 | 1 | 4 | 7 |

男女別を見ると、今回の市民討議会参加者は男性14人（45.2%）、女性17人（54.8%）となり、男女比はほぼ半々であり、女性の参加者が男性の参加者を若干上回っております。一般に公募による市民会議においては男性の参加者が多いことと比較すると、無作為抽出により参加依頼をしたことでサイレントマジョリティの参加につながる効果があったとみることができます。

参加承諾者の年代に関しては、60代の参加者が54.8%と突出しております。例年60代の参加者は多くなる傾向がありますが（昨年度・・・44.2%）、本年は際立っているといえます。他方、10代、20代の参加者はいませんでした。これは「地域のつながり」という今回のテーマに関心がある世代に隔たりがあったためと考えることもできそうですが、バランスを欠いている点は否めません。各年代からバランスの良く参加を働きかける方法は、今後の課題といえます。

地域別に関しては、旧高崎地域が多くなっていますが、高崎市の地域別の人口比

率からするとほぼ比率に沿ったものといえます（旧高崎地域は高崎市全体の約67%であり、今回の参加者の割合は約54.8%でした。）。倉渚地域以外地域から参加者が出ており、地域別のバランスは一応とれているといえます（高崎市全体における倉渚地域の人口比率は、約1.1%であり、今回の31人という参加人数からすると参加者がいなかったことはやむをえないことといえます。）。

（2）参加理由について

当日アンケート結果からの分析となりますが、参加理由に関しては「高崎市のまちづくりや計画に自分の意見が反映されるかもしれないから」が19件となっており、市民討議会における意見が市政に反映されることを期待する声が多く挙がっております。また、「参加対象者を無作為抽出で選んでいるから」が14件となっており、市民討議会の手法を評価する声も多く挙がっております。これらのことからすると、参加者は市民討議会という市民参加の手法を評価して参加しているといえます。

他方、「報酬金があったから」という回答は1件に留まりました。これは報酬金が参加のモチベーションとはなっていないことを意味し、2日間参加で4000円という報酬金の設定について、今後検討する必要があるといえます。

（3）討議内容について

<情報提供について>

当日アンケート結果において、「とても参考になった」が5人、「参考になった」が21人であり、全体の約90%の参加者が討議するにあたり情報提供の内容が参考となったと回答しております。

ただ、中間報告会において、情報提供者の色（傾向）に引きずられやすいという意見がありました。情報提供者が提供する内容については、意見に偏りがないように配慮をしておりますが、今後、情報提供の内容について更なる検討が必要といえます。

<ワークシートについて>

ワークシートに張り付けられた付箋の内容や意見のまとめについて、抽象的な内容であったり、様々な観点からの意見がひとつの文章にまとめてあるなどして、分かりにくい内容が若干ありました。今回の小テーマが抽象的であったことからまとめに苦慮したという面があるかと思われませんが、市民討議会の意見はワークシートに集約され、市に報告されることから、分かりやすいワークシートの書き方について参加者に伝える必要があるといえます。

<小テーマの設定について>

今回は「地域のつながり」という観点から、地域のつながりを生む場、世代間のつながり、コミュニティバス、中心市街地の活性化という様々な小テーマを設定しました。それぞれのテーマについて、市民の目線から様々な意見が出て今後の高崎市のまちづくりを行う上で有益な情報が得られたといえます。

ただ、小テーマの一つ一つが大きなテーマであったこともあり、討議が消化不良気味であるためか、抽象的なまとめが多くなったといえます。

4-2 中間報告会

(1) 中間報告会の開催

10月19日(土)高崎市役所171会議室にて中間報告会を開催致しました。使用した討議シートを整理し、まとめた「中間報告書」を配布し、その内容に関して内容の確認を行いました。また市民討議会参加後の意識の変化についてグループ討議を行ない、発表しました。

ただ、参加いただいた方は、10人と少なかつたため、今後中間報告会にも参加して頂けるように働きかける努力が必要といえます。

なお、当日欠席した方には、後日中間報告書を郵送し、内容を確認してもらいました。

(2) 意見、要望など

①市民討議会に参加して感じたこと、変わったことなど

- ・朝のウォーキング時、つながりを意識することで挨拶が増えた。
- ・様々な地域や市外に勤めている方達と出会え、高崎は大きな街だと感じた。
- ・リーダーの育成が本当に大事だと感じた。自ら動くことの大切さを学んだ。
- ・リーダーの芽が潰されないように行政にお願いしたい。
- ・リーダーの育成を待望する意見が多かったが、市民自らが何かしなければならぬという意見も出ており、参考になった。
- ・市民討議会が出た意見が市政にどのように反映されるか見届けたい。

②市民討議会への意見

- ・中間報告会に多くの方が来てもらえるように働きかけをすべき。
- ・10代、20代が参加するように働きかけをすべき。
- ・情報提供の意見に偏りがあるのではないかと、情報提供者の色に引っ張られやすい。
- ・議題は少なくてもよい。討議時間を増やす。議題を掘り下げて深く討議するべき。
- ・参加してくれている地域、年代に隔たりがある。

- ・ テーマが抽象的すぎる。
- ・ 2日間開催は長い。秋、冬1日ずつなどでよいのではないか。